

【腸内フローラ検査とは】

腸内フローラとは、腸内に生息する常在細菌の集合体で、私たちの腸内には 100 兆個以上の細菌が住み着いています。

近年、「腸内フローラ」が私たちの健康に密接に関係している事が研究で解明されており、腸内フローラの乱れにより様々な病気にかかる危険が高まることも分かってまいりました。

(腸炎、大腸がん、乳がん、肥満、アレルギー、動脈硬化、糖尿病、自閉症など)

ご自身の腸内フローラバランスを知り、自分にあった生活習慣の改善をすることが重要です。

【こんな方におすすめの検査です】

- ・下痢や便秘などお腹の悩みでお困りの方
- ・生活習慣病が気になる方
- ・免疫機能を高めたい方
- ・ダイエットや美容に関心のある方

■腸内フローラ検査でわかること

- ・腸内フローラ判定 (腸内フローラの良し悪しのスコア)
- ・多様性判定 (腸内フローラの菌の種類の多さの指標)
- ・健康長寿菌判定 (健康長寿の方に多い菌の指標)
- ・機能性下痢リスク判定 (下痢型 IBS (過敏性腸症候群) のリスク判定)
- ・血圧計ディスバイオーシススコア判定 (高血圧のリスク判定)
- ・糖代謝系ディスバイオーシス判定 (糖尿病のリスク判定)
- ・大腸画像検査おすすめ度 (大腸がんのリスク判定)
- ・有用菌の割合
- ・要注意菌の割合
- ・改善方法のアドバイス



PART 1 腸内フローラのバランス(概要)について

腸内フローラは、約1000種類以上の腸内細菌から構成されています。まずは、腸内フローラ全体のバランスに関する検査結果を確認しましょう。

腸内フローラ(総合)判定

腸内フローラを構成する菌のバランスをもとに、A~Dの5段階で腸内環境を評価しています。D、E判定の場合は、バランス崩壊(ディスバイオーシス)が疑われるため、積極的な生活習慣の改善が必要です。理想的な腸内環境に近づけるよう、A判定を目指しましょう。

E判定 バランスが悪い判定 (ディスバイオーシスの疑い)

コメント: 有用菌が全般的に少なく、バランスが崩れた腸内フローラです。生活習慣を改善して、3ヶ月~半年後を目処に再検査をおすすめします。

質問: D 前々回: -

腸内細菌の多様性判定

腸内細菌の多様性が高いほど、理想的な腸内環境に近づきやすくなります。腸内細菌の種類が豊富で、各菌がバランスよく存在していると、多様性が高くなります。

多様性スコア: 5.81

高い(良好) 平均的 低い

コメント: 多様性は平均的です。今より更に多様性を高められるよう、シンバイオティクスを日頃の食事でご覧ください。

質問: 低い(4.55) 前々回: -

健康長寿菌判定

健康長寿の人の腸内に多い、「ビフィズス菌(乳酸菌産生菌)」と「ファーカリアバクテリウム属(健康菌産生菌)」を十分量保有していたかどうかを判定しています。※各菌の詳細結果はp.4「個別注目菌の割合」を参照してください。

2種とも豊富 1種のみ不足気味 2種とも不足気味

コメント: ビフィズス菌(健康菌産生菌)が不足気味です。p.4の個別注目菌の割合を確認しましょう。

質問: 2種とも豊富 前々回: -

個別注目菌の割合

ここでは、「有用菌」(腸内に十分保有していることが望ましい菌)や、「要注意菌」(腸内には多すぎないほうが望ましい菌)について、それぞれの特徴を説明しています。なお、各菌の結果はすべて、今回検出されたあなたの腸内細菌全体に対する割合で示しています。

カテゴリ	菌名	腸内(割合%)	参考値(%)
有用菌	腸菌産生菌	3.31%	1.36% / 15.98%
	新腸産生菌	1.18%	0.19% / 8.86%
	プロビオン菌産生菌	0.02%	0.01% / 2.63%
	エクオール産生菌	0.01%	0.00% / 0.61%
	やせ菌	0.00%	0.00% / 0.74%
要注意菌	アクティブ菌	5.41%	0.44% / 4.69%
	不潔生菌	11.05%	0.00% / 3.19%
腸菌産生菌	エシェリキア属	0.00%	0.00% / 1.14%
	腸菌産生菌	12.35%	0.00% / 0.79%
	便秘関連菌	0.26%	0.00% / 8.70%

個別論(有用論)

改善ポイント トップ3

p.4の個別論(有用論)の結果を改善するために、あなたにとって特におすすめの改善ポイントと注目菌の割合が実現可能な目安をアドバイスします。

- 海藻類の摂取**
海藻類には腸内細菌のエサとなり、良い菌を増やす働きのある、水溶性食物繊維が豊富に含まれています。味噌やカラダなどに取り入れて、毎日食べるように意識しましょう。
この生活習慣で改善できる菌: やせ菌(クリスタレンネラ菌)
- 漬物類の摂取**
漬物には腸内細菌として働く乳酸菌や酢酸菌が含まれます。ただし、塩分の摂りすぎには注意しましょう。(目安は小皿1つ程度/日)
この生活習慣で改善できる菌: 新腸産生菌(ビフィバクテリウム)
- きのこ類の摂取**
腸内細菌のエサ後の材料となる食物繊維が豊富に含まれ、腸内フローラを改善する、腸菌やアキバ、ガラが毎食1日1回は食べるように意識しましょう。
この生活習慣で改善できる菌: やせ菌(クリスタレンネラ菌)、アクティブ菌

検査結果サンプル (一部抜粋)

■ 検査の方法

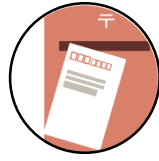
検査は被験者のご自宅での採便となります。ご自身のタイミングで採便をしていただくので負担が少なく検査可能です。検査をご希望の方は医師またはスタッフにお声掛けいただき、検査キットを受け取ってください。



① アンケート・同意書
記入



② 採便



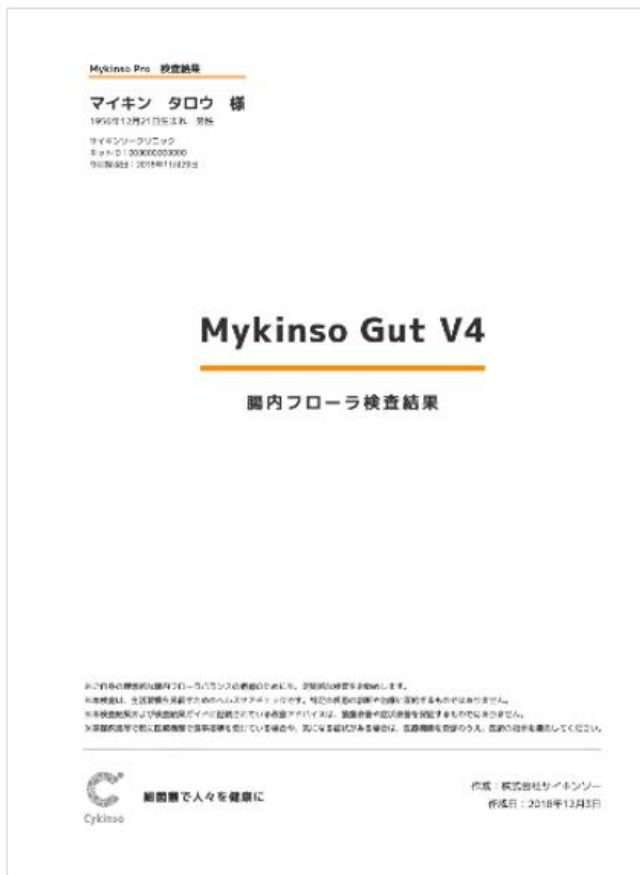
③ ポスト投函



④ 検査結果解説

【良い腸内フローラを育てるためには】

腸内フローラは食事をはじめとする生活習慣の影響を大きく受けています。腸内フローラ検査を実施したあとは、これまでの生活習慣を振り返り、できることから取り入れて食事改善、生活習慣改善を行います。当院では医師が検査結果をふまえてアドバイスをします。また、お持ち帰り用に検査結果の解説や生活習慣アドバイスが載った検査結果ガイドの冊子もお渡ししますので、ご自宅でも参考にしてご覧ください。



検査結果冊子



検査結果ガイド冊子

【検査費用】

本検査は自費（保険適用外）となります。詳しくは当院スタッフまでお尋ねください。